



NPO 法人 点訳・音声訳集団一歩の会 移動支援部

〒179-0075 東京都練馬区高松 2-16-12

TEL・FAX 03-3577-5666

URL info@onyakuippo.com

3月に入り、暦の上では春になりました。冷たい雨や風が続くと、三寒四温とは言え、春の訪れがよけい待ち遠しく思われます。

桜の開花予想は東京では20日となっています。利用者さんとお花見ができるといいですね。

<書類の送付について>

今月も、皆様のご協力のおかげで計算事務がスムーズに進みました。ご協力、ありがとうございました。

3月は月末が土日になりますので、3日までに到着するようにお送りください。郵便は、現在翌々日に着きますが、夕方に投函すると、さらに一日届くのが遅くなります。(1日投函⇒3日に届く・1日の夕方に投函⇒4日に届く) また、その月の支援が終わりましたら利用者さんの記録書を速やかにお送りください。提出後に支援を頼まれた場合は、こちらで記入いたします。間に合わない、届か心配の場合には、**郵送する前に、FAXするか写メ、PDF等で一歩の会のメール**にお送りください。

《注意》今月は、日付と時間の間違いが多かったです。支援が終わりましたら、記録書に記入と同時に自分のメモに書き込んでおいてください。また、提出前に、今一度、ご確認ください。

<新年度に向けて>

事務局では、新年度に向けての準備が始まっています。

先日、ガイド保険更新の手続きをいたしました。

ガイド中に起きた、怪我や後遺障害・入院などをカバーする保険です。ガイド中に起きたトラブルは、大なり小なり、すぐに事務局までご報告(時間と場所・状況)下さいますようよろしくお願いいたします。

また、この保険はガイド活動中のみの保険ですので、利用者さんと、ガイド以外でお会いしている時、他のボランティア活動中のトラブルは、カバーできませんのでご注意ください。

<虐待防止について> (再々掲)

『「障害者虐待防止法」について』月末の書類提出の時に、ご提出をお願いしたプリントを、まだ、未提出の方がいらっしゃいます。まだの方は月末の書類と一緒に提出してください。用紙を無くした、内容が分からないという方は、一歩の会事務局 宮永までお問い合わせください。

よろしくご協力お願いします。

<お願い>

お知り合いで、ガイドヘルパーの資格を取られた方、持っている方がいらっしゃいましたら、一歩の会に是非ご紹介ください。利用者さんの登録希望が数件入っております。

※ひとことメモ (ガイドのポイント)

コロナがら類になって、コンサートや祭りなどのイベントがほとんど通常に戻ってきました。そこで、今一度、混んでいる場所や、イベント会場など、人の動きが読めない場所では、特に後ろにも目を持って、まわりに目を配り、利用者さんが被害に遭うことの無いように、心してください。ガイドさん自身も、歩行中にスマホナビに気を取られたり、お喋りに夢中になって、利用者さんの安全をおろそかにすることの無いよう十分にご注意ください。

- 一歩の会ホームページで、ガイド通信を見ることが出来ます。
 - 2か月ごとの配送の方、お仕事されなかった月も、こちらでチェックして下さい。
 - 月末に提出する「ガイドヘルパー実績報告兼請求書」のフォーマットがホームページからExcelとPDFでダウンロードできます。
- ～上記いずれの場合も、ガイドのページに「ippo」と入力してご利用ください。～

<虐待防止について> 皆さんから寄せられたご意見・感想の一部です。

- ★施設や事業所の職員・ヘルパー等の自覚が大切。
相談できる人や場所など、困ったときの受け皿が近くにあることが必要。
一人で抱え込まない環境が大切
- ★声を上げられない人への虐待は許せない。
自分自身でも軽い気持ちでした事が虐待に当たらないか注意したい。
- ★相手の立場に寄り添うよう心掛けたい。
- ★どこにでも虐待の芽は生まれる。
常に利用者の立場に立った行動・言動を心掛け、気持ちを尊重しているか自問自答したい。
利用者の良いコミュニケーションをとることが重要だと思う。
- ★障害者に対する虐待を防止することは重要。
自分でも気を付けたい。
- ★未然防止、悪化防止、早期発見、通報義務、再発防止
- ★障がい者にかかわらず、虐待者は実母が多い。
第三者(ヘルパーもその一人)の介入が必要不可欠。
社会全体で補える世の中が望ましい。
自分も小さな変化に気づけるよう努めたい。
- ★障害者に限らず、自分がされて嫌なことはしてはならない。
相手が虐待としてとらえる可能性も考え充分注意したい。
- ★自分も虐待をしないように気を付けたい。
ほかのガイドに被害を受けていないかも気を配りたい。
- ★利用者さんを尊重する。お互いに上下の関係なく接する。対等な立場でいることが大切。
- ★思いやりを持つことが大切。
- ★自分にストレスをためない。
ガイドの仕事を楽しむことが大切。
- ★心身共に傷つけるので、あってはならない。
- ★そのつもりはなくても、相手が虐待だと思えばそうなる。
虐待は、あってはならない”
- ★自己満足にならず、相手の立場になって考えることが大切
- ★差別や虐待は許せない。人間として尊重すべき
- ★効率だけを重視することなく、常に起こりうることを想定して行動することが大切。
- ★そのつもりはなくても、相手が虐待だと思えばそうなる。
ガイドとしての自覚が大切。
国をあげて、支援者の心の管理を考える必要がある。
- ★「慣れ」の気持ちが危険。
利用者を人として尊重する気持ちが大切”
- ★日常の気づき、迷い、疑問等を話せる環境づくりが大切。
- ★子供に対する親の虐待。信頼している者が虐待者になるのは心が痛む。
行政が後手後手になっている事は良くない。”
- ★障害者の社会参加を手伝う気持ちがあれば虐待は少なくなる。
- ★双方の誤解が生じないように、出過ぎた介助にならぬよう配慮する。
- ★利用者が虐待と感じないように、ヘルパーの言動に注意。気持ちの緩みに注意。
- ★自覚を持った行動をとる。
- ★小さな甘えや奢り、日常の馴れ合いが虐待を招く。
常に業務の目的を念頭に置いて自分を律し、軌道修正する事が大切”